

中毒性表皮壊死症(TEN)

アセトアミノフェン



77歳，女．既往の間質性肺炎が憎悪，経過中にMRSA肺炎を併発，点滴にて軽快し退院．後日38℃台の発熱が生じアセトアミノフェンを内服，翌日より全身に爪甲大の紅斑が出現．頬部・下顎に紅斑・びらんがみられ，口唇には血痂が付着(上)．

体幹を主体にびまん性紅斑を認め，弛緩性水疱を伴う．Nikolsky現象も顕著で，びらんは体表面積の60%を占めた(下)．

(根本 圭ほか：皮膚病診療 35：1165, 2013)